

一・一四 無前二・一九
 ア 彼後三・一 (可一三・二六、一四
 六二)
 キ (約一三・三六、二
 一・一九) (彼後二・三三)
 ユ (提後四・六 哥後五
 九・二一八 路九・
 一) 二八・三六
 ム 路九・三一
 ヒ (來一・三三)
 七 太一七・五 可九・七
 路九・三五
 セ 太三・一七 見よ
 ス 太一七・一 可九・二
 路九・二八 (出三・
 一、五 書五・一三、
 一五)
 イ 彼前二・一〇、一一
 口 來二・二
 ハ (詩二一九・二〇五)
 ニ (路一・七八)
 ホ 黙二二・二六
 ヘ (哥後四・六)
 ト 彼後三・三
 チ (羅二二・六)
 リ (耶二三・二六)
 又 提後三・一六 彼前
 一・二一 (母後二三
 二 路一・七〇 徒
 一・二六、三・二八)
 ル 申二三・一五 耶
 六・三一 一五、一
 四・一四 約四・一
 ヲ (提前四・二) 太七・
 一五 見よ
 ヱ 哥後一・一 二三 見
 ヲ 一八 (創一九・五
 一 一 猶七)
 ツ (徒一六・一七、二
 二、四、二四、二四)
 ム (無前二・五 猶一
 六)
 ナ 彼後二・一四 (提前
 六・五 猶一六)
 ラ (羅一六・一八 彼後
 一・一六)
 ム (無前二・五 猶一
 六)

を豊に與へられん。

二三 されば汝らは此等のことを知り、既に受けたる眞理に堅うせられたれど、我つねに此等のことを思ひ出させんと爲るなり。二三 我は尙この幕屋に居るあひだ、汝らに思ひ出させて勵ますを正當なりと思ふ。一四 そは我らの主イエス・キリストの我に示し給へることく、我わが幕屋を脱ぎ去ることの速かなるを知らばなり。一五 我また汝等をして我が世を去らん後にも常に此等のことを思ひ出させんと勉むべし。一六 我らは我らの主イエス・キリストの能力と來りたまふ事とを汝らに告ぐるに、巧なる作話を用ひざりき、我らは親しくその稜威を見し者なり。一七 甚も貴き榮光の中より聲出でて「こは我が愛しむ子なり、我これを悦ぶ」と言ひ給へるとき、主は父なる神より尊貴と榮光とを受け給へり。一八 我らも彼と偕に聖なる山に在りしとき、天より出づる此の聲をきけり。一九 斯て我らが有てる預言の言は堅うせられたり。汝等この言を暗き處にかがやく燈火として、夜明け明星の汝らの心中にいつるまで顧みるは善し。二〇 なんぢら先づ知れ、聖書の預言は、すべて己がままたに釋くべきものにあらぬを。二一 預言は人の心より出でしにあらず、人々聖靈に動かされ、神によりて語れるものなればなり。

第二章

一 されど民のうちには偽預言者おこりき、その如く汝らの中にも偽教師あらん。彼らは滅亡にいたる異端を持ち入れ、己らを買ひ給ひし主をさへ否みて速かなる滅亡を自ら招くなり。二 また多くの人がかれらの好色に隨はん、之によりて眞の道は譏らるべし。三 彼らは貪慾によりて飾言を設け、汝等より利をと

四 らん・彼らの審判は古へより定められたれば遅からず、その滅亡は寝ねず。四 神は罪を犯しし御使たちを赦さず
 五 して地獄に投げいれ、之を黒闇の穴におきて審判の時まで看守し、五また古き世を容さずして、ただ義の宣傳者
 六 なるノアと他の七人とをのみ護り、敬虔ならぬ者の世に洪水を來らせ、六またソドムとゴモラとの町を滅亡に定
 七 めて灰となし、後の不敬虔をおこなふ者の鑑とし、七ただ無法の者どもの好色の舉動を憂ひし正しきロトのみを
 八 救ひ給へり。八(この正しき人は彼らの中に住みて、日々その不法の行爲を見聞して、己が正しき心を傷めたり)
 九 かく主は敬虔なる者を試煉の中より救ひ、また正しからぬ者を審判の日まで看守して之を罰し、一〇別けて、肉
 に隨ひて、汚れたる情慾のうちに歩み、權ある者を輕んずる者を罰することを知り給ふ。この曹輩は膽太く放縱
 二 にして尊き者どもを譏りて畏れぬなり。二 御使等はいかの尊き者どもに勝りて大なる權勢と能力とあれど、彼らを
 三 主の御前に譏り訴ふることを爲す。三 然れど、かの曹輩は恰も捕へられ屠らるるために生れたる辨別なき生物の
 四 ごとし、知らぬことを譏り、不義の價をえて必ず亡さるべし。三 彼らは晝もなほ酒食を快樂とし、誘惑を樂しみ、
 五 汝らと共に宴席に與りて汚點となり、瑕となる。四 その目は淫婦にて満ち罪に飽くことなし、彼らは靈魂の定ま
 六 らぬ者を惑し、その心は貪慾に慣れて呪詛の子たり。五 彼らは正しき道を離れて迷ひいで、ベオルの子バラムの
 七 道に隨へり。バラムは不義の報を愛して、一六その不法を咎められたり。物言はぬ驢馬、人の聲して語り、かの
 八 預言者の狂を止められたればなり。一七 この曹輩は水なき井なり、颶風に逐はるる雲霧なり、黒き闇かれらの爲に備へ

イ(申三三・三五) へ後後三・六
 ロ(創六・一七) 猶 ト創一九・二四 猶七
 ハ(歌二〇・一一三) リ猶七太一〇・一五、
 ニ(後後三・六) 結二 一一・二三 羅九、
 六・二〇 二九(斐一・九) 猶六
 水後前三・二〇を見よ、 又後後三・二七 目後後三・二一、一六、
 ナ(後前五・七)
 ル後後二・二を見よ、 一八
 ヲ創一九・二六、二九 夕猶八(出二二・二八)
 ヲ(多一・七) 二二
 ヲ(雅一・八) 後後三、
 一六
 ヲ(弗二・三) 才(弗二・三)
 ク(徒一三・一〇) 一〇
 ヤ民二二・五、七申 三四 尼一三・二
 猶一 一 歌二・一四
 後後二・一
 ケ民三三・二一—三〇
 フ(猶二二)
 コ猶一三

エ 猶一六 弗四・一七
 五 猶一六 弗四・一七 約八・
 三 四 三 後三・二一 (加六・
 二 提前六・二四)
 ア 彼後三・一七
 一 八 二 提前六・二四
 〇 彼後一・四、二・二
 シ 彼後一・二を見よ
 四一六、一〇・二
 六、二七 雅四・
 サ 彼後二・一八
 二 彼後二・一八を見よ
 七 (提後二・四)
 七 七
 七 路一・一六を見よ
 〇 彼二六・二一
 ト 猶一七
 一 五 結二・二
 二、二七 馬二・一七
 太二四・四八
 カ 徒七・六〇を見よ
 ヨ 可一〇・六を見よ
 タ 創一・六、九來一一
 三
 ナ 彼後三・一〇を見よ
 九、一〇 撒後一・
 七を見よ 來一一・
 二九 猶七
 六 六 (西一・一七)
 ソ (彼後二・五)
 ツ 創七・二二、二二
 ネ 彼後三・一〇、二二
 ナ (賽六六・一五) 但七
 九、一〇 撒後一・
 七を見よ 來一一・
 三 七 (彼後三・一五)
 ヲ 彼後二・九を見よ
 哥前三・一三
 ム 彼後三・一を見よ
 ウ 詩九〇・四
 井 哈二・三 來一〇・
 三七 (彼後三・一五)

一八 られたり。一八 彼らは虚しき誇をかたり、迷の中にある者等より辛うじて遁れたる者を、肉の慾と好色とをもて感
 一九 し、一九 之に自由を與ふることを約すれど、自己は滅亡の奴隷たり、敗くる者は勝つ者に奴隷とせらるればなり。
 二〇 彼等もし主なる救主イエス・キリストを知るによりて世の汚穢をのがれしのち、復これに纏はれて敗くる時は、
 二一 その後の状は前よりもなほ悪しくなるなり。二二 義の道を知りて、その傳へられたる聖なる誠命を去り往かんより
 二三 は、寧ろ義の道知らぬを勝れりとす。二三 俚諺に「犬おのが吐きたる物に歸り來り、豚身を洗ひてまた泥の中に
 轉ぶ」と云へるは眞にして、能く彼らに當れり。

第三章

一 愛する者よ、われ今この第二の書を汝らに書き贈り、第一なると之をもて汝らに思ひ出させ、
 二 その潔よき心を勵まし、二 聖なる預言者たちの預じめ云ひし言、および汝らの使徒たちの傳へし主
 三 なる救主の誠命を憶えさせんとす。三 汝等まづ知れ、末の世には嘲ける者嘲笑をもて來り、おのが慾に隨ひて
 四 歩み、四 かつ言はん「主の來りたまふ約束は何處にありや、先祖たちの眠りしもの開闢の初と等しくし
 五 て變らざるなり」と。五 彼らは殊更に次の事を知らざるなり、即ち古へ神の言によりて天あり、地は水より出で
 六 水によりて成立ちしが、六 その時の世は之により水に淹れて滅びたり。七 されど同じ御言によりて今の天と地と
 七 六 は蓄へられ、火にて焼かれん爲に敬虔ならぬ人々の審判と滅亡との日まで保たるるなり。
 九八 愛する者よ、なんぢら此の一事を忘るな。主の御前には一日は千年のごとく、千年は一日のごとし。九 主

その約束を果すに遅きは、或人の遅しと思ふが如きにあらず、ただ一人の亡ぶるをも望み給はず、凡ての人の悔改に至らんことを望みて、汝らを永く忍び給ふなり。○されど主の日は盗人のごとく來らん、その日には天とどろきて去り、もろもろの天體は焼け崩れ、地とそこの中にある工とは焼け盡きん。○斯く此等のものはみな崩るべければ、汝等いかに潔き行状と敬虔とをもて、○三神の日の來るを待ち、之を速かにせんことを勉むべきにあらずや、その日には天燃え崩れ、もろもろの天體焼け溶けん。○三されど我らは神の約束によりて義の住むところの新しき天と新しき地とを待つ。

一四 この故に愛する者よ、汝等これを待てば、神の前に汚點なく瑕なく安然に在らんことを勉めよ。一五 且われ

らの主の寛容を救なりと思へ、これは我らの愛する兄弟パウロも、その與へられたる智慧にしたがひ曾て汝らに

書き贈りし如し。一六 彼はその凡ての書にも此等のことに就きて語る、その中には悟りがたき所あり、無學のもの、

心の定まらぬ者は、他の聖書のごとく之をも強ひ釋きて自ら滅亡を招くなり。一七 されば愛する者よ、なんぢら預

じめ之を知れば、慎みて無法の者の迷にさそはれて己が堅き心を失はず、一八 ますます我らの主なる救主イエス・

キリストの恩寵と主を知る知識とに進め。願くは今および永遠の日までも榮光かれに在らんことを。

ペテロの後の書 をはり

イ羅二・四 黙二・二	一・一	チ賽六五・一七、六六	ル 彼後三・一を見よ	カ(彼後三・九)	ツ(賽二八・一三 彼後	ウ 黙二・五	・六
口 哥前二・八を見よ	ホ 賽三四・四 黙六・	・二一	ヨ(徒九・一七、一五)	三・二	三三・二	井 彼後二・一、二、	
ハ 撒前五・二を見よ	一四(賽二四・一九	リ 賽六〇・二二、六五	ヲ 腓二・一五 提前六	二六 彼後三・二)	ネ 彼後三・一を見よ	二〇	
太二四・四二—四四	米一・四)	・二五 (黙二・二)	タ(彼後三・一四)	ナ(哥前二・一〇、一二)	ノ 彼後二・二を見よ		
黙三・三、一六—一五	ヘ 彼後三・七	七)	レ(來五・一一)	ラ 彼後二・七	オ 羅一一・三六を見よ		
二 太二四・三五 黙二	ト 哥前二・七を見よ	又 黙二・二 (羅八・	ソ(彼後二・一四)	ム(彼後二・一八)	オ 羅一一・三六を見よ		
		又 黙二・二 (羅八・	ワ(彼後一・七)		オ 羅一一・三六を見よ		
		又 黙二・二 (羅八・			オ 羅一一・三六を見よ		

一・四 原語「此等のものによりて」

とあり。